

挑む

モノづくり ヒトづくり

—技術的な強みは。

「一般に普及しているブルドン管式圧力計を主に手がけてきた。製造では薄板と厚みのある部材をうまく溶接する必要がある。一般的に難しいとされる技術だ。同様にロウ付けやハンダ付けの技術も有している」

—測定・制御技術を応用した製品開発に積極的

木幡計器製作所（大阪市大正区、木幡巖社長）は、

圧力計の老舗メーカー。高い成長するには自社の強みや液体の圧力を正確に測る技術を生かし、近年は呼吸機能測定する医療機器などの新分野に参入。さらにはアナログ式の計器をIoT（モノのインターネット）にト化（ト）化する装置を開発するなど、多角的な展開をみせている。木幡社長に強みや人材育成の取り組みを聞いた。（大阪・森下晃行）



木幡計器製作所社長

木幡 巖氏

地域企業と職業訓練協会立ち上げ

「プレット端末を通じて見られる。巡回点検や遠隔監視に活用できる」

—社員教育には社長自ら携わります。

「同業他社からの転職はほとんどなく、研修では製品の仕組みや構造を数日かけて説明し理解を深めてもらう。現場の仕事は基本的にオン・ザ・ジョブ・トレーニング（OJT）で覚えてもらう」

—中小企業の間では人材確保が課題です。

「大阪市大正区と同港区のモノづくり企業の技術を体感できるイベント『大正ものづくりフェスタ』に参加し、地域の子どもや親に体験機会を提供してきた。オープンファクトリーもやっている。会社を知ってもらう取り組みが新卒採用につながっている。地域企業と協力した人材育成にも力を入れる。2020年に民間職業訓練教育機関を運営するワーク21企画（同浪速区）などと共同で『大阪ものづくり企業認定職業訓練協会』を立ち上げた。体系的な教育の仕組みがない中小企業は多い。協会を通じて機械加工などの基礎的な研修を行うことで、知識や技術を身に付けさせる」